

令和4年度 県立社高等学校 学校評価

教育目標

生きがいある生涯のために、生きる力と学ぶ力を身につけよう。

- 1 自立的に生きる力と生涯学び通す意欲と姿勢を培う。
- 2 規律と責任を重んじ、自立と協調の精神を養う。
- 3 思いやりや寛容の心と人権尊重の精神を養う。
- 4 豊かな心と逞しい身体を養う。

教育方針

- 1 学校・保護者・地域との連携を密にし、魅力ある学校づくり、地域から信頼される学校づくり、安全・安心な学校づくりを推進する。
- 2 本校の特色を生かし、基礎・基本の確実な定着を図り、個性や創造性を伸ばすとともに、豊かな感性と自立して未来を切り拓く力を養う。
- 3 命と人権を尊重し、国際的な視野で多様な文化や価値観の理解と尊重する態度を養い、高い志をもって国際社会に貢献する力を培う。
- 4 厳しいなかにも温かさのあるふれあいを通して、生徒理解に基づく生活指導を心がけ、生徒一人ひとりの社会性と主体的な進路選択能力を育成する。

各学科のミッション

(体育科) 競技力の向上を図り、将来の体育指導者としてグローバルに活躍する人材の育成
(生活科学科) 食と栄養のスペシャリストとしてグローバルに活躍する人材の育成
(普通科) 成りたい自分になるために希望進路の実現を図り、グローバルに活躍する人材の育成
特に看護医療類型については、看護医療・スポーツ医療分野のエキスパートとして活躍する人材を育成する

令和4年度努力目標・実践目標について

令和4年度の努力目標は、

- ①キャリア教育(進路指導)の充実
- ②生徒学力の向上
- ③広報活動の充実と地域との連携推進
- ④部活動・生徒会活動の充実

の4つの視点から整理した昨年の取組を更に充実させる方向で見直しを図った。

それぞれの年度努力目標ごとに、現状とありたい姿について全職員で話し合い、共有化を図る。

実践目標については、令和3年度の成果と課題をふまえて、担当部署ごとに整理する。

また、PDCAサイクルで学校改善が進むようにするために、スケジュール指標・活動指標・成果指標など、実践目標に応じて数値化できるものはできるだけ数値化する等、きめ細かく評価指標を設定する。

取りまとめ担当部署

- ①キャリア教育の充実→進路指導部
- ②学力の向上→教務部
- ③広報活動の充実→総務管理部
- ④部活動・生徒会活動の充実
→生徒指導部

◆評価点について

A(5点)B(4点)C(2点)D(1点)としたときの
の平均値

◆総合評価について

平均 4.1 以上…A 3.6 以上…B
平均 3.1 以上…C 2.6 以上…D
平均 2.5 以下…E

努力目標 I		実践目標	主担当	評価指標	総合評価	今年度の成果と課題
キャリア教育の充実 (進路指導)		具 体 的 な 取 組	学年進路 進路指導部	<ul style="list-style-type: none"> ・部会を学期に1回は実施し、学年進路行事や進路についての情報交換を行い、進路指導部から有意義な情報を提示しているか。 ・各学年で早期に平常及び長期休業中の補習や学年の進路行事を計画し、職員会議に提示しているか。 ・3年生対象の面接対策、小論文対策を教職員が協力して実施しているか。また、そのスキルを向上させるための情報提供ができているか。 ・生徒が利用しやすいように進路指導室の環境を整えているか。 	4.3 A	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全職員による面接・小論文指導体制をとることができた。 ・専門部-各学年-学年進路担当係の役割分担が不明確な部分があった。 ・学年主体で進路ガイダンス等の教育活動を計画的に実施できた。 <p>(次年度に向けて)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次年度も計画的な指導を継続して行う。キャリアパスポートを有効活用する。 ・学年進路係を通じて専門部—各学年の更なる連携を目指す。 ・学校全体での取り組みは進路指導部の企画により学年が取り組むようにする。 ・進路指導部を中心に年間の進路行事を再確認・方策を整理する。進路ホームルームで共有できるデータを蓄積する。
			進路指導部	<ul style="list-style-type: none"> ・4月上旬に「進路だより」を発行しているか。 ・「進路の手引」の内容をより充実させ、6月中旬に発行しているか。 ・大学入学共通テストの変更等、大学入試制度が変わりつつある現状の理解を含め、大学入試に関して共通理解を図る職員研修会を開催したか。 		4.2 A

<p>を続けることができる生徒および互いに高めあえる生徒集団を育成する。</p>	<p>続させ、進路に対して早期の意識づけと基礎力をつけるために1年時よりの学習への取組を徹底させることが課題である。</p>		<p>(3) 学びの原動力・推進力となる体験学習の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高大連携を推進し、計画的に大学見学会や分野別模擬授業などに取り組む。また、産学連携を推進し、インターンシップ、職場訪問など体験学習の機会、および事前事後指導を充実させる。 ・体育科や生活科学科については、トップアスリートやスペシャリストから直接指導を受ける機会を充実させる。 	<p>進路指導部</p> <p>学年</p> <p>生活科学科</p> <p>体育科</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・高大連携について、大学見学会や進路ガイダンスで模擬授業等の体験ができてきているか。 ・就職希望者のインターンシップを就職指導の一環として有効に実施しているか。 ・生活科学科、看護医療類型において、その専門性を生かしたインターンシップを実施しているか。 ・専門学科では、「ひょうごの達人」招聘事業やインスパイア・ハイスクール事業などを活用して、本物に触れる機会を充実させているか。 	<p>4.3</p> <p>A</p>	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍ではあったが、インターンシップや講師招聘事業、インスパイアハイスクール事業など多くの活動を実施することができた。一方で、看護医療類型に関する活動は第1学年の大学見学と看護医療学の外部講師による授業以外実施できなかった。 (次年度に向けて) ・来年度もコロナの影響が続くと考えられるが、できる範囲で地域との連携を推進する。 ・継続した指導が可能となるよう、学年、専門部や総合的な探究委員会と協力を図りながら、計画的に事業を進める。 ・3年を見通した進路指導計画を策定する。 ・インターンシップが実施できない場合に備えて、代替事業を検討していく。
<p>努力目標Ⅱ</p>			<p>実践目標</p>	<p>主担当</p>	<p>評価指標</p>	<p>総合評価</p>	<p>今年度の成果と課題</p>
<p>生徒学力の向上</p>	<p>具</p> <p>体</p>	<p>(1) 教職員の教科指導力の向上</p> <p>生徒の興味と意欲を高める「わかる授業」作りのために、計画的に公開授業や研究授業に取り組む。</p> <p>定期的に生徒による授業評価アンケートを実施し、授業改善に役立てる。</p> <p>高大接続改革をふまえて、生徒の主体的・協働的な学びを授業に取り入れる。</p>	<p>学力向上推進委員会</p> <p>教務部</p> <p>各教科</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を実施したか。 ・各教科で年間1回は授業研究会を実施しているか。 ・各教員が、年間1回は公開授業を実施しているか。 ・各教員が、年間1回は生徒による授業評価アンケートを実施しているか。 ・全科目シラバスを作成できたか。 	<p>4.2</p> <p>A</p>	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オープンスクール（公開授業）を実施した。 80名ほどの保護者・教育関係者が来校され貴重な意見をいただいた。それをもとに授業改善に向けて取り組めた。 ・タブレットを学習活動に積極的に利用する取り組みが活発に行われた。 (次年度に向けて) ・研究授業を計画的に行い、授業実践の共有を はかり、教科指導向上を目指す。 	
<p>(ありがたい姿)</p> <p>目標とする進路実現に必要な基礎・基本的な学力を身につけるために、積極的・意欲的に学習に取り組むことができる生徒を育てる。</p>	<p>(現状)</p> <p>平日の平均家庭学習時間は、1・2年生の約8割が2時間未満という現状、基礎・基本的な学力が身につけている生徒が少ない。</p>	<p>的</p> <p>な</p> <p>取</p> <p>組</p>	<p>(2) 学習習慣の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習規律を確立し、生徒が真摯な態度で、授業に取り組むようにさせる。 ・ポートフォリオの活用について研修を重ねていく。 ・生徒の学習活動の改善に向けて、自学自習の能力を高めるための指導法について考えていく。 	<p>学力向上推進委員会</p> <p>教務部</p> <p>各学年</p> <p>進路指導部</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・1日の家庭学習時間について、2時間以上の割合が40%以上。 ・定期的に充実した補習が実施されているか。 ・計画的に週末課題が課せられているか。 ・1・2学期末に生活実態及び学習状況調査を実施し、分析結果を指導に役立てているか。 	<p>3.5</p> <p>C</p>	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画的に長期休業中や週末課題が課されたが、それが生徒の学習習慣に結びついていないようである。平日2時間以上している生徒は全体の10%程度である。 ・生活実態調査を分析して、活用することを検討していく。 (次年度に向けて) ・タブレットを活用して、生徒の学習活動を記録し、活用する方法を検討する。 ・生活実態調査の結果を分析し、課題を発見

<p>さらに、学力を伸長させるため、放課後や長期休業中の補習に積極的に参加し、計画的・主体的に学習できる生徒を育てる。</p>	<p>各学年で、週末課題を課したり、放課後に学力の伸長を図るための希望者補習に取り組んだり、長期休業中には普通科生徒に対する全員補習や希望者補習を実施している。</p>		<p>(3) 模擬試験や資格試験の活用 定期的に模擬試験等を受験させ進路意識の向上を図る。模擬試験等の受験後の振り返り（解き直し・復習）を習慣づけ、苦手分野の克服に努めさせる。 英語検定や漢字検定、数学検定、情報処理検定などの各種検定試験を校内で実施し、資格の取得を奨励する。</p>	<p>学力向上推進委員会 進路指導部 各学年</p>	<ul style="list-style-type: none"> 定期的に校内模試を実施し、受験結果について専門家を招聘して分析することによって生徒の学力を学年内や教科で共有しているか。 利用の仕方の確認や振り返りの習慣づけなどの活用ができているか。 年間に、英検、漢検は2回以上、その他の検定は1回以上校内実施するように計画する。 検定合格に向けて、補習を計画的に実施する。 	<p>4.0 B</p>	<p>し 生徒指導や教科指導に役立てる。</p> <p>(成果) ・校内模試や英検・漢検の校内実施は計画通り行うことができた。 ・英検受験に向けて多くの生徒が取り組み、リスニングや二次試験にむけての補習が行われた。</p> <p>(次年度に向けて) ・模試や検定だけでなく、コンテスト等の応募に積極的に応募できるような環境をつくる。 ・引き続き生徒個々に目標を設定させ、模試等を目的意識を高く持って受験するようにする。 ・模試の復習や振り返りを積極的に活用する。</p>
<p>努力目標Ⅲ</p>	<p>実践目標</p>	<p>主担当</p>	<p>評価指標</p>	<p>総合評価</p>	<p>今年度の成果と課題</p>		
<p>広報活動の充実と地域との連携推進</p>	<p>(1) 各種通信及びホームページの充実 各種通信は毎月1回以上の発行を目指し、ホームページに掲載する。また、ホームページの更新回数を増やすとともに内容の刷新を図る。</p>	<p>各学年 各学科 総務管理部</p>	<ul style="list-style-type: none"> 各通信は毎月1回以上発行しているか。 ホームページは現状に合わせた最新の情報をアップデートできているか。 行事の記録なども含め、常に新しい情報を発信出来ているか。 	<p>4.2 A</p>	<p>(成果) ・ホームページや学年通信、各種通信で学校の情報をコンスタントに発信できた。 ・校長通信により教職員・生徒ともに情報共有ができた。</p> <p>(次年度に向けて) ・次年度も継続的に発信する。 ・部活動のページで大会成績などのデータ更</p>		

		具 体 的 な 取 組				新をスムーズにし、リアルタイムで発信できる方策を考える。		
<p>(ありがたい姿) 常にタイムリーで新しい社高の姿を発信し、保護者や地域の方から信頼されるとともに、学校の基本情報や行事・部活動の様子など、中学生が進路選択をする際に、社高校を正しく理解できるような情報を充実させ、入学したい高校として好感度を高めることをめざす。また、情報発信を踏まえた地域と学校の連携に取り組む。</p>	<p>(現状) ホームページは定期的に更新できている。 生徒会で作成した学校紹介ビデオなどのように、生徒目線の情報の発信が求められる。 オープン・ハイスクールでは生徒を活用した運営ができ、成果が上がっている。オープン・スクールにおいては参加者を増やす様々な工夫が必要である。 各科、類型における地域連携は充実しており、普通科生徒が地域と連携する機会を多くする必要はある。</p>		<p>(2) オープン・ハイスクールの効果的な運営 毎回、異なる視点で開催し、本校のあらゆる活動を紹介できるように、全校を挙げて協同で運営する。生徒を前面に押し出した企画・内容で本校の育てたい生徒像を発信する機会とする。</p>	<p>生活科学科 体育科 総務管理部</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・オープン・ハイスクールごとにプログラムの工夫をおこなっているか。 ・生徒を前面に押し出した運営になっているか。 ・全校を挙げて共同で運営し、来校する中学生や保護者に好印象を与える運営となっているか。 ・学校紹介ビデオやプレゼンの内容や構成はなるべく新鮮な素材を用いたものになっているか。 	4.5 A	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オープン・ハイスクールでは、本校の情報を中学生や保護者・先生方に伝えることができ、その内容については中学生・保護者とも好印象を持たれている。 ・秋のオープン・ハイスクールでは、個人申込の形になったが、おおむねスムーズに集約することができた。 <p>(次年度に向けて)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き生徒会や生徒から情報提供を行う。 ・個人申込により、中学校への参加者情報の提供が煩雑になった。また、連絡のない当日欠席者があり、このあたりの対応が課題である。 	
			<p>(3) オープン・スクールの機会と内容の充実 授業公開や学校行事、合同発表会など、地域の方をはじめ大学関係者、企業等、多くの学校関係者に教育成果を見ていただく環境を整える。</p>	<p>総務管理部 教務部</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業公開週間に参観している保護者・地域等の方々が増えているか。 ・体育科、生活科学科、看護医療類型において実施する課題研究発表会をオープン・スクールとして設定しているか。 ・3学科合同発表会を実施するための環境を整えるために、課題等が議論されているか。 		4.6 A	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多くの保護者や関係行政からの参加があり、本校の普段の教育活動への理解につながった。 <p>(次年度に向けて)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・継続実施する。
			<p>(4) 地域との連携推進 地域貢献事業や、ボランティア活動などを通じて、地域との連携を推進し、本校の特色ある各科や部の活動の様子を、さまざまな形で発信していく。</p>	<p>総務管理部 生活科学科 体育科</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・世代間交流や小中高連携事業などを始め、地域連携が積極的に行われているか。 ・ボランティア活動を通じて、さまざまな方々との交流が行われているか。 ・防災訓練や校外清掃などを通じて、 			4.5 A

			生徒指導部	各地域団体との連携がなされているか。		<ul style="list-style-type: none"> ・引き続きできる範囲で地域連携を押し進める。 ・生活科学科や他校の事例情報を収集し、普通科の地域連携事業を充実させる。
努力目標Ⅳ		実践目標	主担当	評価指標	総合評価	今年度の成果と課題
部活動・生徒会活動の充実	具 体 的 な 取 組	(1) 部活動の充実 生徒・保護者が求める部活動のあり方、学校の特色としての部活動のあり方、また、政府が求める部活動のあり方について、すり合わせを怠ることなく、より良い部活動運営について生徒と教員が一致団結をして模索する。 また、生徒会が主体となり、従来の「入部率アップ」という考え方についても、その是非を考える。	学年生徒指導 生徒指導部	<ul style="list-style-type: none"> ・適切な部活動運営のため、計画的なノ一部活動デーの設定ができていますか。 ・入部率の向上に努めているか。 ・また、それに相反する「働き方改革」「部活動外部委託化」・「4号業務削減」等の動向が進行する動向の中、「校内活動」であることの意義について、生徒・教員の思考が整理されているか。 	4.4 A	(成果) <ul style="list-style-type: none"> ・入部率の向上に向けて、部活動紹介にとどまらず、部活動見学期間・仮入部期間等を設定する等の施策を実施した。 ・部員一人ひとりの「幸福度」が高まるよう、生徒の主体性や対話を重視する指導法や運営の手法が各部活動に浸透してきている。 ・生徒会役員等を介して、今年度も学校外部の企画に参加する生徒のサポートを行うなど、時代の変化に対応する活動ができた。 (次年度に向けて) <ul style="list-style-type: none"> ・入部率の向上を目指す施策と、教員の働き方改革・部活動の地域移行等の部活動縮小施策との矛盾についての考察を重ね、生徒に学校部活動の意義を伝える場を模索する。 ・大会等の日程の関係上、1週間単位でのノ一部活動デーの設定が難しく実施しがたい場合があった。教育委員会にはそのような場合の理解を得たい。
		実践目標	主担当	評価指標		総合評価

<p>(ありたい姿) 各種活動において自ら計画、活動ができるようにありたい。またそれらの指示が生徒主導でありたい。</p> <p>具体的には、部活動の入部率が上がり、生徒会行事や各種委員会の活動が活発に行われ、生徒が生き生きとした活気に満ちあふれた学校でありたい。</p>	<p>(現状) ほとんどの生徒が時と場所に応じた行動・態度が取れているが、自主的な行動や主体性を持った活動というところまでは達していない。</p> <p>部活動の入部率は年度当初は高くなっているが、その一方で年度途中の退部者も微増している。</p>	<p>(2) 生徒会活動・ボランティア活動の充実 新しい文化祭のあり方、体育大会のあり方を生徒会が中止となり考えていく。</p> <p>また、各種ボランティア活動が可能となれば、積極的に取り組めるように環境を整える。</p>	<p>生徒指導部 (生徒会係)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各行事に於いて、生徒全員が参加でき、仲間と共に作り上げていくという経験ができる企画となっているか。 ・各種ボランティア活動参加が再開できたか。 ・1年生の「清掃ボランティア活動」の意義を生徒自身が理解することができたか。 	<p>4.0 B</p>	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度も従来の文化祭は不可であったが、「文化発表会」形式が定着し、ほとんどのクラスが舞台発表を実施するなど、コロナ渦前とは比にならない程、「人前での発表に参加する生徒」が激増した。 ・1年生の清掃ボランティアは、先生方の指導の下、多くの生徒が積極的に参加した。 <p>(次年度に向けて)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒会役員等による「校内放送」を充実させるなど、生徒全員が学校全体の様子や特徴を共有できる空間づくりを目指していく。
		<p>(3) 委員会活動の活性化 美化委員を中心とした校内環境美化活動、風紀委員を中心とした生活習慣の向上、保健委員を中心とした健康で安全な生活を送るための啓発活動など、各委員会がより良い学校環境づくりに努める。</p>	<p>関係部署 生徒会</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶運動が「中身を伴う形」で復活することができたか。 ・校内美化について、生徒会が主体となって取り組むことができたか。 ・引き続きの感染防止について、生徒会が中心となり啓発活動ができたか。 ・スマートフォンの取り扱いについて議論ができたか。 	<p>3.6 C</p>	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タブレット・スマートフォンについては、時代の変化に対応し、必要な場面に於いて積極的に使用を許可した。 ・生徒会による挨拶運動はコロナ渦のため実施しなかったが、各部活動に於いては継続的な指導ができています。 <p>(次年度に向けて)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒会役員を介し、生徒の「整理整頓意欲」の高揚を目指したい。